

部会長：吉野 博

(仮称) 健康負荷削減部会の活動方針 (案)

1. 部会の目的

健康に及ぼす各種の影響要因を医学的、建築的観点から明確にし、それらを排除して健康で快適な環境を実現するための基準、トータルシステム、設計手法、ライフスタイルなどを提案する。

特にアレルギー疾患と住環境要因、VOC とシックハウス、ダンプビルディング、ヒートショック問題を中心として扱う。

更に、住宅における健康負荷削減技術の体系化を進めるとともに、総合的に考えた場合の熱・空気・湿気的环境形成技術・最適化制御技術の開発、即ちイノベーションとしてのトータルシステムを開発する。

2. 研究内容

(1) 健康負荷削減のための個別検討事項

VOC などによる化学物質汚染、カビ・ダニなどの生物汚染、ハウスダストの健康影響、室内における温度差・室内外温度差とヒートショックの関連、家庭内における不慮の事故とその原因などについて検討する。

(2) 健康負荷削減技術の統合によるトータルシステムの開発

シックハウス・ダンプビル防除のためのシェルター性能や設備システム、ヒートショックを防止し快適な熱環境を実現するシステムについて検討する。

3. 方法

(1) 既往の研究の整理

(2) 調査・実測 熱空気環境の実態把握のための各種の調査

(3) 実験 トータルシステムに関する性能基礎実験

4. アウトカム

(1) 室内環境の基準作成

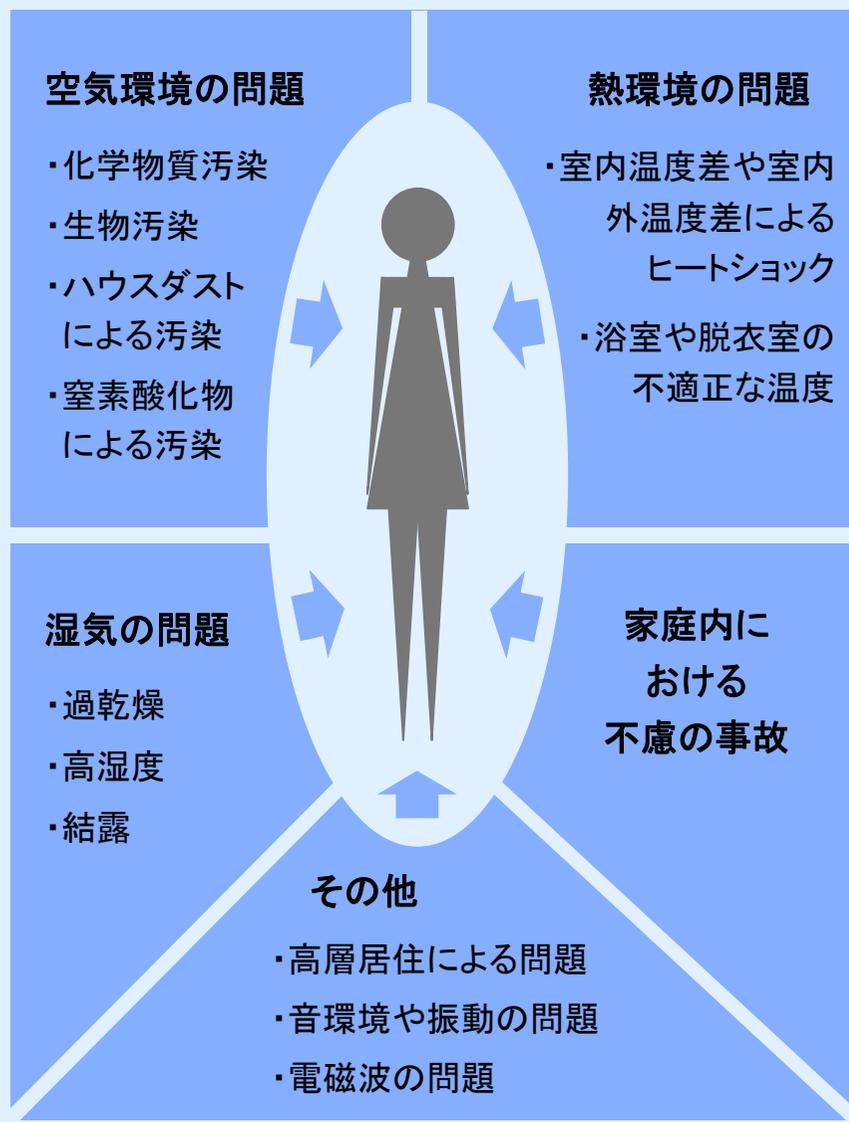
(2) トータルシステムの提案

(3) 設計手法の提案

(4) ライフスタイルの提案

健康維持増進住宅研究委員会（仮称）健康負荷削減部会の活動方針案

健康負荷の原因となる各種の影響要因



健康負荷の原因となる各種の影響要因を医学的、建築的観点から明確にする。

健康負荷削減技術の体系化とトータルシステムの提案

1. 室内環境の基準作成

- (1) 化学物質・生物汚染を防止する基準
- (2) ヒートショックを防止する室内温度差・室内外温度差
- (3) 過乾燥とダンプネスを防ぐ室内湿度環境の適正範囲
- (4) 電磁波の健康影響がないレベル

2. トータルシステムの提案

- (1) 化学物質・生物汚染を防止するトータルシステム
- (2) ヒートショックを防ぎ快適な熱環境を実現するシェルターと暖冷房換気システム

3. 設計手法の提案

- (1) 新築住宅: 建築的手法(断熱・蓄熱・調湿)、空調システム
- (2) 既設住宅: 建築的・設備的リノベーション手法

4. ライフスタイルの提案

- (1) カビ・ダニ防除のための住まい方
- (2) 結露防止のための住まい方